

最終戦は



体を張ってボールを奪い合うサッカー

岡も左サイドを得意にドリブルで駆け上がるが決まりに欠け、ゴールを奪えない。逆に同28分、水戸にCKから先制された。

後半は水戸ペース。徳島は中盤でのバス回しにもたついたり、決定的なシュートを外したりする

午後4時ごろからは、

ピッチでシーズン終了を

祝うセレモニーが開か

れ、サポーターが選ぶ

「今季最も印象に残った

やんだ。

師走を迎える鳴門市大麻

町の大谷焼の各窯元では来

年の干支「戌」の置物づく

りが最盛期を迎えた。

矢野陶苑でも陶芸家の矢

野款さん(63)が工房で粘

土の型抜きをし、細かい仕

焼き上がりは12月中旬にな

る。

台に並

多い半

しい半

年に難

だ。



農業の甲子園 2年生で優秀賞

三好高校の崎川龍也さん(17)=写真=が、岐阜県内で開かれた「農業の甲子園」、日本学校農業クラブ全国大会の農業鑑定競技・林業部門で2年生ながら優秀賞を獲得した。

植物や農機具、肥料など林業に関するものの実物や写真をみて、種類などをいかに正確に答えられるかを競う。林業に関する計算問題も2問含まれ、計40問。崎川さんは「じっくりていねいに、誤字や脱字にも気をつけ、32問はできた」。

当初は競技ではなく意見発表の部を目指した。テーマは「夢は祖父を超えること」。小さなころから池田町の母の実家で、林業の祖父について回った。中学まで兵庫県加古川市で過ごし、進路を林業に決めたが近くに林業科はなかった。転勤族の父親と離れ、母と兄弟3人が引っ越ししてきた。

意見発表では四国大会で阻まれ、急きょ出場した鑑定競技で結果を残せた。「ある程度、祖父に近づけたかも。でも実際に山での動きはまだまだ。祖父に追いつけるよう、体を鍛えています」(竹中千広)

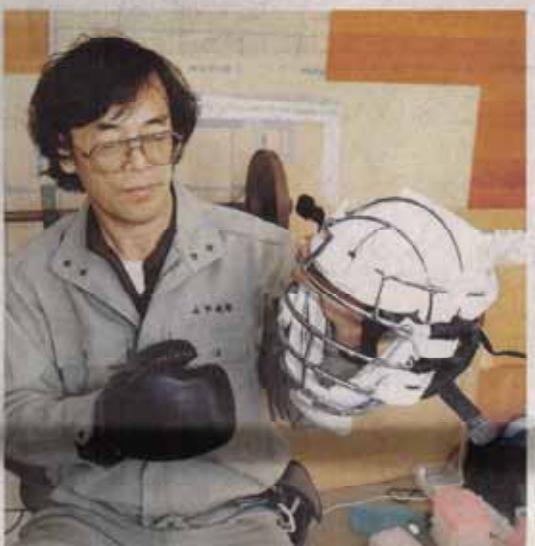
ひと 模様



「四国アーランドリーグ」に注目している。「野球をやりたいと思っている人たちのチャンスを広げる試み。能力を高めて、ぜひセ・パ両リーグにきてほしい」

(保田達哉)

日本拳法 安全に鍛錬



防具を着用して突きやけり、関節技などを織り出す日本拳法。徳島大学日本拳法部のOB会長山下佑治さん(58)=写真、徳島市川内町)=は、より安全に技を磨いてもらおうと、従来の防具を改良した「徳大式防具」を開発した。この「ぶしを痛めなくなつた」と現役の部員たちにも好評だ。

競技歴は約40年。かつて4年連続で全国大会に出場した実力者。現在も週3回は部員と拳を合わせる。近年、鉄製の防具面を突いてこぶしを骨折する部員が増えた

そこで、インターネットで衝撃吸収に優れた素材を調べ、日本拳法の特性に合う低反発クッション材を見つけた。グローブと防具面の内側に詰めるなどして試作を重ねた。9月からは部員たちにも練習で着用してもらい、改良効果を確認したという。「日本拳法の安全に役買えたらいいですね」

(志村英司)